

インターナショナルトレーニングにて、4年ぶりにチャリティオークションが復活!!

8月11日~18日にビジョン心理学インターナショナルトレーニングが、東京芝の専売ホールで開催され、14日には、こころのビタミン研究所紹介の時間もたれました。中野隆一副代表理事が、スライドを使い、海外・国内の各支援活動や、20年以上にわたる歩み、その間の達成を紹介しました。
また、16日には、4年ぶりにチャリティオークションが復活しました。栗原英彰理事の

口ハシャツを始め、多数の品々が、参加者等から気前よく出品され、貢献を楽しむ気持ちと愛にあふれたオークションは、大変な盛り上がり。結果、売上寄付額は、209万9,157円となりました。その他、募金箱等のご寄付と併せ、今回のセミナーでの寄付総額は、242万3,017円となりました。皆さんの熱いご支援に、感謝します。



吉田真美理事の司会で盛り上がるチャリティオークション



ハートフルファミリー紹介

こころのビタミン研究所発足時から理事として貢献し続けている吉田真美さん。20年以上続くチャリティオークションの名司会でお馴染みですが、堪能な英語力で、ミトンさんなど海外のパートナー招聘に当たってはビザ取得の書類制作や、時には翻訳通訳など、見えない部分でもここビタを支えています。



吉田真美理事

こころのビタミンではじめてオークションを行ったのは、「ハートフルファミリーの集い」のイベントでした。副代表理事だった鷹野えみ子さんに頼まれて、オークションの進行役を務めました。そうしたら、想像していたよりも盛り上がり、寄付もたくさん集まったのです。
それから、毎年ビジョン心理学のインターナショナルセミナーでオークションを行うようになり、今では恒例行事となりました。オークションの目的は「貢献」です。そして、100パーセント参加して、自分自身を与えることで、楽しく貢献できるのです。それ

は何も、高値をつけて商品を競り落とすことだけでありません。その場にいる人たちが、オークションにエネルギーを注ぐことで、会場全体が盛り上がり、それも大きな貢献なのです。
また、オークションが楽しいのは、ポジティブな形で競争を使い、貢献できることです。子供のように歓声をあげたり、悔しがったり、真剣勝負です。
ありがたいことに、4年ぶりのオークションも、たくさんの寄付が集まりました。さまざまな形でオークションに参加、貢献してくださっている皆さまのおかげです。(吉田真美理事)

こころのビタミン研究所の活動にご支援をお願いいたします!

→ご寄付はホームページからお申込みいただけます

ホームページからは、クレジットカードでの寄付、ハートフルファミリー会員の申込みも可能です。

QRコード▶
こころのビタミン研究所
ホームページ



【振込先】 郵便局：ゆうちょ銀行 記号10100 番号77011271
銀行口座：三井住友銀行 三田通支店 普通7852939

【口座名(郵便局・銀行共)】 特定非営利活動法人こころのビタミン研究所



〒108-0073
東京都港区三田3-1-5 第一奈半利川ビル3F
TEL 03-5765-1956 FAX 03-5765-1961
E-mail info@cocoro-v.org
URL <http://www.cocoro-v.org>
ブログ <http://ameblo.jp/cocoro-v>
Facebook 認定NPO法人こころのビタミン研究所

ビタミンニュース No.32 2023年11月号
発行日/2023年11月20日 発行/認定NPO法人 こころのビタミン研究所

令和4(2022)年度 収支報告

(令和4年4月1日~令和5年3月31日 単位:円)

収入の部		支出の部	
会費収入	668,000	勉強会事業	5,000
勉強会事業	0	相談事業	137,643
相談事業	160,940	海外支援事業	
海外支援事業		バングラデシュ	7,110,004
バングラデシュ	30,000	ハイチ	4,604,185
ハイチ	269,000	自然災害支援事業	0
自然災害支援事業	2,000	子ども支援	1,800,550
子ども支援	143,000	あしなが育英会へ寄付	180,000
寄付金	17,689,439	母子支援事業	150,000
		喪失回復プログラム	110,000
		会報及び出版物発行	298,021
受取利息	191	管理費、諸経費	4,271,935
当期収入	18,962,570	当期支出	18,667,338
前期繰越金	16,058,698	次期繰越金	16,353,930
合計	35,021,268	合計	35,021,268

令和5年度通常総会が6月8日に開催され、令和4年度決算報告及び令和5年度事業計画は満場一致で承認されました。

Vitamin News

ビタミンニュース NO.32 2023年11月号



バングラデシュからミトンさん、アンジュさんが4年ぶりに来日!

2030年に向けた次なるビジョンを分かち合い、その実現のためにエネルギーチャージしました。

ミトンさんとアンジュさんは、こころのビタミン研究所の招きで来日し、10月7日~9日の栗原弘美代表理事(ビジョン心理学マスタートレーナー)によるヒーリングセミナーに参加しました。懇親会で、お二人はビコシト・バングラデシュ・ファンデーション(BBF)の現在の活動と今後のビジョン、そして感謝を述べました。栗原代表理事は「私達ができる支援は、お二人をできるだけ頻りに日本にお招きし、その時々の問題を解決していく事だと思います」と話し、会場は大きな拍手に包まれました。



セミナー参加者に拍手で迎えられるミトンさん、アンジュさん

BBF代表ミトンさんのスピーチ

2019年以来4年ぶりにセミナーに参加でき大変嬉しいです。私は2000年に栗原英彰さん、弘美さんと創った「2021年、建国50周年までに自国の飢餓を終わらせる」というビジョンを達成できました。この達成には、こころのビタミンの財政面の支援だけではなく、セミナーによるエンパワーが大きかったです。ここにいる多くの方が、こころのビタミンを通して支援してくださり、心から感謝しています。

私たちは2030年に向けて新しいビジョンを設定しました。「お母さんを幸せにする」というプロジェクトです。こころのビタミンの支援により、母子ケアができる病院が2つ建てられ、少女への奨学金、小学校も運営しています。来年はコロナ禍で休止していた学校給食を開始したいと考えています。

BBF副代表アンジュさんのスピーチ

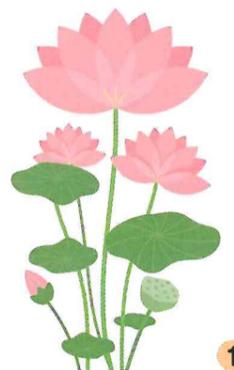
今回初めて、ミトンさんと一緒にセミナーに参加できて、大変嬉しいです。私が女性のために働こうと思ったのは、母が7人の子供の出産、子育てで大変苦労したからです。また弘美先生と出会い、女性がもっと活躍して連携することの大切さを学び、女性のコミュニティのために働くことに決めました。私たちは2021年に飢餓を終わらせましたが、地方の女性たちはコロナ禍のロックダウンで食べ物もなく、医療も受けられず、非常に苦しみました。

BBFでは、皆さんの支援で、地方で低価格で安全なお産ができる病院を建てられましたし、奨学金を受けた少女たちは、今後女性たちのお手本になってくれると思います。私たちはこれらを「ハッピー・マザー・プロジェクト」と名付けました。幸せなお母さんが、次の幸せな時代を作ると信じているからです。2030年のビジョンも皆さんのサポートを得て、達成したいと思います。

ビコシト・バングラデシュ・ファンデーション(BBF)とこころのビタミン研究所

ミトンさんはハンガー・フリー・ワールド(HFW)バングラデシュ事務局長のかたわら、自国でNPOビコシト・バングラデシュ・ファンデーション(BBF)を立ち上げ、昨年5月に政府からNPOとして認定されました。

数年前、HFWの活動方針が食に関するプロジェクトに特化することとなり、ミトンさんはこれまで実施してきた小学校や職業訓練センター、少女への奨学金などのプロジェクトをBBFに引き継ぎました。これらは、こころのビタミンが支援してきたプロジェクトであり、また母子ケア病院にも共感し、こころのビタミンはBBFを設立時から支援しています。





母子ケア病院

カリガンジとボダで、2つの母子ケア病院を運営しています。300人の女性が出資して、協同組合病院として設立しました。出資者は豊かな人も貧しい人もいますが、1株1000タカ(約1300円)で出資額は様々です。彼女たちの多くは、栗原弘美代表理事のセミナーの受講生です。母子ケア病院は、超音波で胎児を診ることができ、妊産婦の死亡率が減っています。眼の検診や一般の診療も行っており、風邪、腹痛、糖尿病、めまいなどが多いです。貧しい人のために診察代は1回50タカ(約65円)です。都市部の病院では300~500タカかかります。こころのビタミンの支援金は病院の建設費に使われています。



ソーシャルビジネスで収入創出

BBFはソーシャルビジネスを確立し、女性が収入を得て、自立することを目指しています。

例えば、農作物を都市部へ出荷する流通システムを作り、収入創出につなげたいと考えています。又、BBFは牛の飼育投資プロジェクトを開始しました。投資家が5万タカ(約65,000円)を投資して、農村の女性に牛を1頭預けると、1年位育てて、9万タカ(約117,000円)で売ることができます。利益の4万タカ(約52,000円)の内2/3は牛を育てた女性に、1/3をBBFと投資家で折半するという仕組みです。



同様に、3,000タカ(約4,000円)の投資で、奨学生が鶏を飼育し、収入を得て自立するプロジェクトも計画しています。

少女のための奨学金制度

現在、カリガンジとボダで、各45名、合計90名に奨学金を支給しています。160人~180人の応募の中から、家庭訪問や学校訪問で、進学の意味や奨学金の必要性などを確認し、受給者を決めています。受給対象は中高生(13, 14歳)から大学生(23歳位)までで、中高生は月に400タカ(約520円)、大学生は500タカ(約650円)ですが、物価の高騰で支給額を上げたいと考えています。バングラデシュでは、貧困のため女の子が親に強制的に14, 15歳で結婚させられてしまうことがあり、少女たちが高等教育を受けることが非常に大切です。奨学金を1人に10年位継続して支給するため、奨学生を増やすことができないのが悩みです。

インタビューを終えて

BBFは2030年に向かって、すでに始動しています。バングラデシュを「花咲かせる」ための明確なビジョン、将来的には寄付に頼らず、ソーシャルビジネスで自立を目指すという、ミトンさんとアンジュさんのリーダーシップに非常に心動かされ、お二人のビジョンを共に達成していきたいと思いました。



2000年に「建国50周年までに飢餓を終わらせる」ビジョンが誕生したインド料理店にて

(吉野泰江 理事・ビタミンニュース担当)

治安悪化のため、ハイチを離れ、アメリカに居る子供たちと会ってきました。

ハイチは現在も首都の80%がギャングに支配されています。多くの国民がドミニカ共和国やアメリカに脱出し、その中には専門家、法執行官、医療従事者、大学卒業生などが大勢います。これは国の将来にとって大きな人的損失です。貧しい人々が住むシテ・ソレイユや近隣の村では飲料水と電気が供給されず、学校や病院は閉鎖されています。

余りにも治安が悪化したため、私と妻は8月中旬から9月末までハイチを離れ、子供たちの居るアメリカで過ごしました。

二人とも大学を卒業し、息子は科学マネージャーとして、娘は障害児のために働いています。久しぶりに家族4人が揃い、週末は本当に楽しく過ごしました。又、ニューヨークで親戚と会い、日本料理店で寿司を食べるなど、休暇を楽し

しました。休暇中も、私はスタッフと頻りに連絡をとり、医療保健センターはいつも開けていました。危険で医師が来られない時は、看護師が応急処置をします。患者数は増えており、雨季に入ったため、コレラと感染症対策を強化しています。

このような状況の中でも希望はあります。10月2日に、国連安保理がハイチに国連軍を派遣することを採決したのです。

こころのビタミンの皆さん、どんなに困難な時でも私たちを支え、共にいてくださり、本当にありがとうございます。

(IAH代表 センティル・ラゲル)

家族揃って、ニュージャージー州ハミルトンの教会の帰りに。



ハイチから

ハートフルファミリーの集い 「私にとってのこころのビタミン研究所」を語る

第2弾

4月15日(土)、ビジョンダイナミクス研究所の会場とオンラインを併せて85名が参加し、磯田江利子理事の司会により「ハートフルファミリーの集い」が開催されました。昨年好評をいただいた、「私にとってのこころのビタミン研究所」を語る第2弾として、新たなスピーカーがそれぞれの想いを語りました。ビジョンを共有し、未来への投資を継続する価値を確認する機会となりました。このイベントを通して、17万円余りの寄付、4名のハートフルファミリー会員の申し込みがありました。皆様のご支援に心から感謝します。



横井 恵 (HF会員)

私がこころのビタミンが大好きなのは、支援先の皆さんの力になっていることを実感することができるからです。地球をぐるっと一周、手をつないでいる人達の絵が、私のビジョンです。つながることでお互いを力づける、フレンドシップを活かす場所として、出来ることならなんでもしたいと思っています。



磯ヶ谷ふき子 (理事)

栗原弘美代表理事の発案で、2010年にスタートしたOSK倶楽部から生まれたOSK憲章。人を助けたいという思いのある人に、あなたのおせっかいが世界を救うというエールです。日常レベルの貢献がエレガントなおせっかいです。



鳥居ひとみ (理事)

私には、縁の下の力持ちになりたいという夢がありました。ハートフルファミリーとして毎月寄付をする事で、バングラデシュに学校が建ちました。私一人の力では無理です。皆さんと共にあったから出来たのです。私の寄付のお金もここにある。夢が叶いました。これからも皆さんと共に夢を叶えたいです。



中野隆一 (副代表理事)

「私たちのビジョンと一緒に作り出す事に皆さんが出来る事で協力してください」という2002年のミトンさんの講演会で力強い言葉で、私が生きていく方向性が分かったような気付きがありました。貢献は特別なことではなく、支援したいという気持ちなのだと思えます。これからも継続して貢献していきます。



鷹野治夫 (理事)

父から相続した畑を売って30万円を貢献したら妻の飛び切りの笑顔があった。吉田真美さんのオークションはとてもパワフルで楽しい。貢献は自分にふさわしい額と言われ、月々の貢献を千円から1万円に変更したら、自分を承認できた。貢献は「笑顔」「パワー」「楽しさ」「承認」を作り出す。



栗原英彰 (理事)

「あなたにふさわしい金額を貢献してください。」と津津都子さんに言われ、とっさに「100万円」と答えたことが、私の貢献の始まりでした。それは、今から30年以上前、私の人生で一番お金の無い時期だったのです。「あなたにふさわしい貢献金額はいくらですか？」



徳富隆子 (理事)

地域でのこころの勉強会、バングラデシュの小学校向けの英語教材作り、家庭の廃油を使った石鹸づくりと、仲間と一緒にやりたいことをやって、それが貢献につながる喜びを感じてきました。私にとってこころのビタミン研究所は、自分のやりたいことを実現させて貰えた所です。



津津都子 (理事)

こころのビタミンの基本精神はOSK「おせっかい」です。子供支援も、海外支援も「自分が気にかかるから、困っている人を手助けしたい」という思いを行動にする。そんな「おせっかい」こそが、今の世の中に最も必要なことではないでしょうか？ OSKは「地球規模のおせっかい」だと思います。



湯田佐恵子 (理事)

27年前の初版「こころのビタミン」は、私にとって夢を実現する教科書でした。当時独身だった私はこれを何度も読み返し、自分のビジョン「結婚」を達成しました。そして2002年に「こころのビタミン研究所」が誕生。私は何かしたくて、「こころの勉強会」を始めたのです。そして、今に至っています。



栗原弘美 (代表理事)

私は、寄付はただお金を払うのではなく、未来への投資だと考えています。皆さんが世界から物質的、精神的、貧困をなくすという、こころのビタミンのビジョンを共有していただき、貧困のない平和な未来を実現するための投資を始めていただければ、嬉しいです。

